

セッション	B. 語彙論：語の形成 (2014. 3. 22 於 北京日本学研究中心)
タイトル	畳語名詞の意味 ―成分の意味との関わり―
著者名(所属)	譙燕 (北京日本学研究中心)
連絡先 Eメール	qiao5522@hotmail.com
<p>論文内容</p> <p>(背景および研究目的)</p> <p>日本語の畳語名詞は様々な性質をもつ成分の重複からなるもので、成分の意味用法との異同が多く見られる。本研究では畳語名詞において成分の意味が変質するか否か、また畳語名詞の意味と成分の意味とどう関わっているかを明らかにすることを目的とする。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>まず、『現代書きことば均衡コーパス』を用い、畳語名詞とその成分の用例を抽出する。その後、畳語名詞とその成分の意味を考察し、両者間の意味的関わり及び畳語名詞に付加された文法的意味を検討する。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>畳語名詞において成分の意味がほぼそのまま保持されたものとしては「隅々」などが挙げられる。もちろん、語形が二つ存在する以上、必ずその間に機能の有無、程度の深淺、ニュアンスの強弱などの違いがあると考えられる。そのほか、成分の意味が変質しているものは非常に多くあり、変質の仕方によって、a.成分の意味項目が削減されたもの、b.成分にない意味項目が添加されたものに分けられる。aの例としては、例えば「あとあと」は多くの意味項目を持っている成分の「あと」の意味の一つしか受け継いでいないのである。Bでは、例えば「もともと」の有している「もとの状態と同じで、損にも得にもならないこと」という意味は、成分を重複させることによってできた意味で、成分の持っていない、添加されたものだと思われる。</p> <p>また、畳語名詞は複数性の認められるものが極めて多いが、その複数性も語によってまた逐一指示(家々、月々、日々など)、多数指示(方々、木々、島々、町々、山々など)と総数指示(津々浦々、隅々)に細分できる。</p> <p>(結論)</p> <p>以上のことから、畳語名詞は成分と比べて、意味項目が削減されて、成分の最も基本的な意味しか受け継いでいないものが多いことが分かった。また、畳語名詞の多くは複数性の認められるものであるが、その複数性に差のあることも確認された。</p>	
<p>参考文献：</p> <p>玉村文郎(1986)「古代における和語名詞の畳語について」(『論集日本語研究(二) 歴史編』)</p> <p>橋本四郎(1959)「動詞の重複形」(『国語国文』28-8)</p> <p>三浦秀松(1998)「畳語の構造―畳語名詞の意味と派生について―」(『表現研究』68)</p> <p>蜂矢真郷(1998)『国語重複語の語構成論的研究』(塙書房)</p>	